

令和7年度第1回刈谷市総合教育会議 議事録

1 日 時

令和7年5月26日（月）午後1時30分～午後2時30分

2 場 所

刈谷市役所 701会議室

3 議 題

刈谷市教育大綱の改定について

4 出 席 者

市 長	稲垣 武
教育委員会 教育長	金原 宏
教育委員会 委員（教育長職務代理者）	石田 芳加
教育委員会 委員	鶴田 英孝
教育委員会 委員	浅井 優
教育委員会 委員	小川 耕示

5 会議構成員以外の出席者及び事務局

教育部長	竹谷 憲人
教育総務課長	近藤 真
教育総務課 課長補佐兼総務係長	溝口 香織
学校教育課長	田中 仁
学校教育課 指導主事	近藤 佳奈子
学校教育課 指導主事	佐藤 裕一
生涯学習課長	山田 芳久
スポーツ振興監兼スポーツ課長	坂東 知道
アジア・アジアパラ競技大会推進室長	杉原 秀克
企画財政部長	岡部 直樹
企画調整監兼企画政策課長	平野 元章
企画政策課 課長補佐	小原 崇照
企画政策課 経営管理係長	池田 陽一郎
企画政策課 主事（書記）	和田 芳明

6 傍 聴 人

なし

1 市長あいさつ

皆様こんにちは。大変お忙しい中、第1回総合教育会議ということでお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ご承知のとおり、本年度は市制施行75周年ということで、にぎわいがある1年、そして元気な刈谷市であり続けるために色んな行事を行っていきたいと思いますので、引き続き、ご支援いただきますようお願いを申し上げます。

新年度が始まって2か月ほど経ちますが、本年度予算での教育関連のトピックとしては、小・中学生の教材費に対する支援や給食の食材費上昇分を公費負担する取組など、物価高への対応を進めてまいります。また、「子ども相談センター」と「子ども・若者総合相談窓口」を統合するとともに相談室を増設し、相談者の利便性向上と相談体制の強化を図ることで、より一層子どもの心のケアに取り組んでまいります。

そんな中、最近気になったのは、ゴールデンウィーク明けに子どもが事故の被害者になる、あるいは加害者になるということが全国的に起きたことです。我々大人も四月病、五月病といいますが、特に長期休暇には子どもたちも普段より色々なことを考えたりしているのかと思います。やはり小さい子どもたちの心のケアが必要だと再確認した次第であります。

また、先週東海四県の首長が集まる東海市長会が静岡県磐田市で行われました。磐田市の人口はおおよそ165,000人、刈谷市よりも12,000人程多いのですが、1年間の出生数はおおよそ800人という話を伺い、刈谷市の人口はおおよそ153,000人、1年間の出生数は1,200～1,300人ということで、世代別の人口構成が少し違うのかなということを感じました。いずれにせよ、少子化というのは全国的に進んでおりますが、とにかく素晴らしい環境の中で子どもたちを育てていくことに努めていきたいと思っております。この度は、教育大綱の見直しを行ってまいります。どうぞよろしく願いいたします。

2 議題

刈谷市教育大綱の改定について

・刈谷市教育大綱改定スケジュール（案）（資料1）

＜企画調整監兼企画政策課長から資料1について説明＞
質疑なし

・第3次教育大綱（素案）（資料2）

＜企画調整監兼企画政策課長から資料2について説明＞
以下、各意見要約

市長

事務局からの説明を踏まえまして、皆様のご意見いただきたいと思っております。まずは石田委員お願いいたします。

石田委員

方針としては現在の第2次教育大綱を引き継いで、一部修正していくということで、

素案をご説明いただきありがとうございました。PTAなどによるボランティア活動とスクールガードによる見守りの記載順を入れ替えるなど、ちょっとしたことですが、実際に助け合っている様子に合わせて内容が変更されているなど思いました。それと食育の推進に関して、食に対する意識を「高め」という言葉に変わっているのですが、目標がステップアップされていて、着実により良くなっているんだなと感じました。コロナ禍を経てICT機器関係に注目されがちな世の中ですが、本物に触れる機会の充実というのは、さらに必要になってきたかなと思っています。なんでもデジタルで見られる時代になって、それで満足するというよりは、本物に触れたり、コミュニケーションをとったりすることで、子どもたちの感性が磨かれていくのかなと感じています。そのような中で全体を通じて、これまでとこれからを見据えた自分の願いを少しお話しさせてください。

私としては「ありがとう」という意識の下、刈谷市内の学校はお互いの存在を認めあう環境づくりが定着してきているなど感じています。今年度も学校訪問が始まっていますが、校長先生、学校の先生方が意識されているなど感じています。私たちが児童・生徒だった頃、学校は単に教科を習得する場という意識が強かったのですが、先程の「ありがとう」の言葉や感謝を通して生きることが喜び、地域学校協働活動など学校に関わる方がさらに増えたことで、教員や地域の大人から愛されている、愛情をもらうという感覚を体験できる場に環境が変化しつつあると感じています。これは社会構造の変化とつながっていて、働き方の多様化、家族の形の変化、地域とのつながりの希薄化といった背景の中で、無条件の愛というのを経験できていない子もまだまだいるというのも実感しています。大綱の「礎」にもあるとおり、「あなたは大切な存在だよ」と関わるもの同士が伝え合う営みが教育かなと思います。教育は「教え、育む」という字から成り立っていますが、その「きょういく」の「きょう」は「共に」子どもと考える、「共に」助け合うという意味があるのだと考えています。子どもに「どうしたいのあなたは」と聞いたって、どうしたらいいかわからないから答えがたいのだろうなと感じた場面があり、私たち大人がもっと質問の仕方、言葉の構築の仕方を考える必要があるのかなと思いました。子どもに一声かけるというのは、単純にこやかにあいさつをするのも大切ですが、深刻な問題の場合は、共に考えよう、共に行動してみようという「共に」が子どもの心に響くと、この人は信じてもいいかな、話してみようかなということにつながっていくのかなと考えています。こうして述べたことは、全て知、徳、体、礎に入っていますので、時代の流れが速く、変化も激しくなっていますが、「健やかな判断」ができる子どもの成長が大切になっているかなと思います。子どもだけでなく大人も、健やかな判断、臨機応変に対応できる力というのを時代の波に合わせ、より一層向上させなければならないし、教育環境においてもそこを意識していかなければならないなと感じました。

市長

ありがとうございました。それでは鶴田委員お願いいたします。

鶴田委員

第3次教育大綱の素案をまとめていただきありがとうございました。現在の第2次教育大綱はよくできていると思っております。知、徳、体の3つの柱があって、それを礎が支えている。これは絵にしてもわかりやすく、良い形かなと思います。育てたい子ども像についても明確に示していただいておりますので、この第2次教育大綱における考えを大切にしていきたいと考えています。今回説明いただいた第3次素案を拝見しても、基本的には第2次教育大綱を引き継いでいるようであり、このまま進めていただきたいというのが率直な所感ですが、数か所ご検討いただきたいポイントがあります。

1つ目はICTについてです。ご承知のとおり、新型コロナウイルスを機に社会全体としてICT活用がさらに活発になり、特にコミュニケーション分野においては必須の技術となっております。教育現場においては、本市は他市に先駆けてタブレット環境を整備いただき、現在ではタブレットがあるのが当たり前という状況になりつつあると感じています。そんな中、ICTの活用について大綱の中で謳っていても良いのではと思いました。ICTを活用するためには基本的な操作技術、情報収集力、できあがったものを判断する力など様々なものが必要になりますが、ICTというのは確かな学力を形作る上では必須の技術になってくると思っております。ICTを基に、より広い、より深い学びを追求するという内容が、「知：確かな学力」にあっても良いのかなということを考えております。

2つ目は、社会全体が多様化してきているという点です。学校という子どもたちの社会も同じで、色々な家庭で育った子どもたちが、色々な価値観を持ち、同じ場所で学んでいる。多様な価値観が集まる環境で、その多様性を前提とした価値観を自分に取り入れ、積み重ね、自分の意見も広げ、また深めていく。このようなスキルがあっても良いのかなと思います。前回の大綱の中にも「共に生き、未来を創造する子ども」という言葉がありましたが、共に生き、刺激を受け、新たな価値観を創造するというのは、今後にも必要なスキルだと思いますし、育てていかなければならないと考えております。

3つ目は心についてです。前回の総合教育会議でも申し上げましたが、私は町工場の親父でして、最先端の工場ではないですから、従業員が多くいる中でものづくりをしています。その中で重要なのは従業員一人ひとりの心が安定していること、現在の環境が幸せであるかどうかが必要になるのかなと考えております。前回の総合教育会議においても、先生方の働き方改革ということを推進しているという話がありましたが、先生方一人ひとりの在校時間外の生活が充実している、幸せを感じている、心が安定しているということが重要なのかなと思います。先生方のウェルビーイングにも配慮していくんだという強い姿勢を大綱の中で示すことによって、刈谷市の教育環境をより良くしていくという思いが伝えられるのではないかと思います。もちろん、大綱にふさわしくないという部分もあると思いますので、これはまたご検討いただければと思います。

市長

ありがとうございました。それでは浅井委員お願いいたします。

浅井委員

第2次を踏襲して第3次の素案を作成いただき、第2次の骨組みは非常に良いなと感じていたのですが、第2次を引き継いでいる今回も素晴らしい大綱になるのかなと思っています。第3次の期間は令和8年度から令和12年度となりますので、個人的にはもう少し夢を語っても良いのかなと考えております。実現可能な範囲を記載していくというのは理解しておりますが、まだどこもやっていないような夢をひとつ語りたかなと思いました。最近の学校訪問で子どもたちが授業を受ける姿を見て、落ち着いているといえれば落ち着いているのですが、静かといえれば静かな印象を持ちました。1日6時間という時間を学校空間で過ごしている中で、子どもたちは本当に楽しんでいるのかと疑問に感じました。私は高校生の時に数学で躓いてしまったことがあるのですが、大人になった今、家庭教師を雇ってでも数Ⅲを学び直したいと思ったことがあり、これは受験でも無く、テストでも無く、なんで躓いてしまったのかを知り、ただ自分の知識を満たすことができればすごく楽しいだろうなと思ったからです。学校現場ではテストや受験があるので、少し違うとは思いますが、学校現場で1日6時間を費やした子どもたちが「楽しいな」「学びたいな」「知識を得ることってこんなに面白いんだ」って思う時間を作れないかなと考えています。テストだとか、受験だとか、教えなければならぬことが決まっているため、面白い授業ではなく「これはやらなきゃいけない」、「これはやってもいい」、「これはやる時間がない」ですとか、そういう選択になってしまいます。大人になるとお金を出さないと学べませんが、学校ではスペシャリストの先生方がそれぞれいて、場を用意してくれて、丁寧に教えてもらえる。夢みたいな話かもしれませんが、学校の空間と時間がすごくありがたくて、貴重なことだな、知識を得るということは単純に楽しいことだなと子どもたちに感じてもらえるような教育にならないかなと思っています。それが最終的に子どもの生き抜く力にもつながればさらに良いのかなと思っています。いい高校に進学して、いい会社に勤めるのが全てではなく、それぞれがこの困難な時代を生き抜いていける、寿命を全うする際に「幸せな人生だったな」と感じるような、そんな力を付けさせられる大綱ができると良いなと思っています。

市長

ありがとうございました。それでは小川委員お願いいたします。

小川委員

第3次教育大綱の期間が令和8年から5年間ということですが、第2次を策定してから5年経った現在で何が変わったかなと振り返ると、先程ICTの話が出ましたが、AIの急速な進歩というのは目を見張るものがあり、ChatGPTであるとか、中国のDeepSeekであるとか、その分野が急発展しています。これは第2次策定時には今ほど注目されていなかった分野でして、これからは世界的にAIの分野でしのぎを削っていくような流れになっていきます。例えば第3次素案の3ページ「科学的な思考の育成」などで、もっと「AIを子どもたちに充実させるぞ」というくらいの勢いがないと、「タ

ブレットや電子黒板などICT機器の効果的な活用」くらいでは科学のまちである刈谷市の教育大綱にしては少し弱いかなと思います。

それと部活の在り方についても今後さらに変わっていくと考えられるので、部活動をサポートして、「まち全体で子どもたちを育てるぞ」という気持ちがもう少し見えてもいいのかなと思いました。

これまでお話しした点が教育大綱で見えたら、市民の皆様も「AIの分野でも刈谷はすごいな」と感じていただけるかと思えますし、「部活動も我々でサポートしていくんだ」という意識が高まるのかなと思いました。現時点でも大綱としては良くできていると思いますので、意気込みがもう少し見えたらなという感想です。

市長

ありがとうございました。それでは金原教育長お願いいたします。

金原教育長

教育委員の皆様のお話を伺っていて、「なるほど」と納得させていただきました。私はどうしても学校現場の子どもの動きばかり見ていて、もうちょっと全体を見なければいけないなと感じました。学校の子どもたちは本当に頑張っているのですが、その頑張っている子どもたちに、なんとか勢いをつけてあげたいなと、いつもそのように思っております。

3ページの「知：確かな学力」のところですが、浅井委員もおっしゃられたように、子どもに「学ぶ実感」を感じてほしいなと思っておりまして、学校現場で先生方は「わかった」、「できた」に力を入れてくれております。主体的な学習はその後に生まれてくるもので、まず「わかった」、「できた」、「うれしい」、「たのしい」、「次をやってみよう」という流れにつながるように、是非とも新しい教育大綱でも力を入れていきたいなと思っています。

4ページの「徳：豊かな心」では「ありがとうを伝え合う機会の充実」とありますが、これは「礎」の「ありがとうがあふれる学校づくり」にも関係してきますが、小垣江東小学校へ学校訪問した際、もっと主体的にありがとうが言える学校づくりをしよう、子どもたちが自ら声を出していく、そんな取組を進めてくれていますので、この辺りはしっかりと応援をさせていただきたいなと思います。災害についても、子どもたちが主体的に災害について学んでほしいと思っています。刈谷特別支援学校と小垣江東小学校が合同で避難訓練をやっていて、小垣江東小学校の先生方が子どもたちを運動場に避難させた後に、刈谷特別支援学校に応援に行っているとのこと。朝日中学校では中学3年生の男の子が隣の第二こぐま保育園まで迎えに行くというような訓練もありますし、授業の中でも防災グッズについて学んだりしていますので、引き続き子どもたちが主体的に防災教育にも取り組んでほしいなと思っています。4ページの「創造性、感受性、表現力の育成」についてですが、やはり音楽や芸術も大事にしたいと考えております。「夢が広がる未来応援事業」でサッカー日本代表監督の森保一氏や

デンソーアイリスの高田真希氏を呼んでくださりましたが、こういった本物に触れて、その生き方を感じるというようなことは子どもたちが意欲的に生きていくことにもつながりますので大切な事だと思っております。今年、東京フィルハーモニー交響楽団と連携し、9月28日のコンサートの際には市内中学代表の子どもたちも参加できるということで、子どもたちはかなり喜んで、期待しておりますので、こういう企画ができてくるといいなと思っております。

5ページの「体：健やかな身体」についても、先程、小川委員がおっしゃられたように、部活動が少なくなってきたということで、それをどうカバーするかについては大綱に記載できておりませんが、「身体を動かす楽しさを味わう」では、まだまだ足りないかなと、小川委員のご意見を伺って感じたところです。

そして「礎」の部分、これはやはり一人ひとりが認められる学校というのを作っていかねばいけないと思っております。地域学校協働活動が、昨年度全ての学校に導入されて、小学校では延べ4,800人程の地域の方々に活動していただいております。1校あたりにすると300人超の方に協力いただいております。中学校では、逆に地域に出て活動している中学生が延べ2,200人を超えていますので、これも1校あたりにすると300人超の生徒たちが地域で活動しているということになります。依佐美中学校で話を伺った際には、地域の人に毎朝声を掛けてもらって、中学生がとても喜んでいてということで、このような地域とのつながりも出てきていますので、これは非常に良い動きだなと思っております。教員の心身の健康、ゆとりについても、教育大綱に記載するかについては事務局とも検討していく必要がありますが、本当に大切な事だと思っております。

このような状況も踏まえ、多様性の時代で「共に生きていく」、変化の激しい時代で「未来を創造していく」というこの子ども像を一番大事にしていきたいなと思っております。

市長

只今、教育委員の皆様と教育長からご意見を頂戴しましたが、何かご意見ありましたら伺いたいのですが。

金原教育長

AIはどのような形で進めていくのが良いのでしょうか。やらなければいけないという思いはありますが、いかがでしょうか。

石田委員

刈谷は理科が強いのに、AIについては弱いのかなと感じておまして、何か策があるのかなと皆さんの意見を聞いていたところです。AIはもう家庭にも入っていて、子どもたちもChatGPTを使っているのが現状です。今年もどんどんAIが生活に入ってきているという感覚はありますが、皆さんや市役所でも使っていますか。

企画財政部長

AIは業務で使っていますが、職員全員が満遍なく使っているかという点、利用量については偏りがあるという認識です。

石田委員

無料のアプリもあって、普通に受け答えができるっていいですね。どうやって教育と結び付けていくのか。1、2年前に私たちの中で話していたときは、AIの時代は必ず到来するけど、まだ教育に取り入れたいと思っていないという風潮であったなという覚えがありましたが、急速に社会が変わって、今では既にAIの時代が到来しているので、教育にどう入っていくのだろうっていうのは考えさせられますね。

金原教育長

第3次教育大綱の最終年になる5年後なんて相当進んでいるでしょうね。

石田委員

そうだと思います。教育もAIが関わってきて、今とは違うと思います。どのようにAIを取り入れるかにもよりますが、5年後も学校現場において子どもたちの評価が必要な時代であれば、評価の仕方も変わってきますよね。

浅井委員

今までは自分たちが頭で考えて、ロジカルに筋道を立て、それを資料に落とし込んでということをしていましたが、今後生きていくためにはAIをいかに効率的に、いかに有効に活用していくかという世の中になっていくかと思います。おそらく仕事上は自分で考えるよりその方が効率的だという考え方がある一方で、子どもたちが育っていく上ではテストもあるので、AIを使いこなせる子どもでも、テストがクリアできるかっていうと、そうじゃない部分も出てきたりするのかなと思ったりしています。極端な例として、全部AIがやってくれる世の中になり、テスト自体も無くなるような状況になってしまえば、AIをいかに有効に使えるかっていう方向に舵を切っていけばいいと思うのですが、これは覚えておかなければならないよね、こういう思考力は持っておかななくてはいけないよね、というのは教育には残っていくと思います。基本的な考え方は把握した上で、AIで作った方が有効的だよね、早いよねという社会の形になるのかなって思っています。

金原教育長

読書感想文も作ってくれるようですが、やっぱり自分で考えて作文してほしいという気持ちもありますよね。

石田委員

そこについても家庭によって意見が分かれると考えています。効率を重視する保護者がいらっしやったら「夏休みの読書感想文なんて、そんなのは ChatGPT にやってもらって、もっと夏休みを謳歌しなさい」という意見も出てきそうですよね。ただ、今の教育を大事にして、自分で考える力を付けることも大事なんだよって教えたいところもありますし。

金原教育長

何を考えさせるかってことですよ。

石田委員

その点は現在、過渡期なのかなと思います。刈谷市がどうやって AI を導入していくか、文部科学省からのお達しもあるかと思うのですが、すごく難しい状況ですね。

鶴田委員

各論に入ってしまう恐縮ですが、もし子どもに AI を教えるのであれば、まずセキュリティというか、危険性というか、リスクの方を先に教えてあげた方が良いかと思います。リスクというものをしっかり教えて、その上で、AI を使いこなすことができる環境にすることが重要なかなと思います。

石田委員

教育でメリットだと思うことは、登校できない子どもたちが自宅で AI を利用して学習するとか、社会に出るきっかけ作りになるだろうという点です。「この子達どうやって食べていけばいいのだろう」と迷われている保護者さんは多くいらっしやって、AI を活用すると、もしかしたらその心配が少し減るのかなと思ったことがあります。

市長

少し前に、フィンランドで ICT 機器を使った教育に対して懐疑的な意見が出ていると聞いたことがあります。先進的にデジタル化を進めたけれども、戻ろうとするような動きがあるとのこと。なぜそうなったのか、今後どうしようとしているかなど詳細は承知していませんが、行き過ぎたところを戻すような、そんなような記事がありました。そういう事例をよく勉強していきたいと思います。

小川委員

民間ではチャットボットでサービスを提供しているところが多くなってきておりますが、行政はどうなんでしょうか。

企画財政部長

チャットボットを活用している部分はあります。

小川委員

そういう状況であれば、学校現場でもチャットボットが登場する時代というのは来ますよね。子どもの頃から民間や行政がそういう世界であれば、是非を教えるというより勝手に普及してしまうような状況ですよね。

石田委員

働き方改革の一つですよね。例えば、学校への電話は8時から17時までと決めています。それ以外の時間帯でしか電話ができない保護者がいた場合に、チャットボットが対応してくれるのであれば、少しは働き方改革になるのかなと思います。

市長

浅井委員と小川委員の方から、もう少し教育大綱に特徴がほしいというようなお話をいただきましたが、その点どうでしょうか。

浅井委員

AIをどのように活用していくか、もう世の中の的には好むと好まざるとにかかわらず、AIを使っていかなければならない社会は来ていて、刈谷市が他の市よりも先に、AIをどのように教育に結び付けていくかという点についても触れていってもいいのかなという気はします。

市長

その辺り、事務局側で大綱の中に落とし込むことができるような材料というかアイデアを持っていますか。

学校教育課長

AIの活用という面ですが、実際に授業現場をあまり見ることができていないのでわからない部分もありますが、思考力を育むという点で、どこまでAIを活用していくかという点をもっと検討、吟味していかないといけないと考えております。

市長

ただ単に教えてもらうだけでは教育の意味がない。ですから、考える能力、思考能力を高めるっていうことが目的になりますよね。

学校教育課長

AIを使うことありきではなくて、どう使うと効果的かというのをもっと色々検討し

ていかなければならないと考えています。

浅井委員

そういう検討を始めるだけでも、刈谷はすごいな、先進的だなと思います。AIを使う、使わないではなくて、それをどう捉えていくかを真剣に考えている姿勢を出すのもいいのかなと思います。

市長

つまり、具体的に事業、施策まで示すことができなくても、そういう姿勢であるということ見せるということですね。

浅井委員

「重要案件であり、意識はしていますよ」ということですかね。

金原教育長

よくわかります。

市長

部活動はどうですか。これからは地域に委ねていくような方向ですよ。

金原教育長

学校の部活については国の方も地域移行という言葉をやめて、地域展開とか地域連携となってきました。国も学校の部活の大事さはわかっていますから、部活と地域の方の連携方法をもうちょっと考えていかなければと思っています。

石田委員

部活を外部に頼むとしても、部活の時間帯に仕事をしている人が多いという問題もあります。部活があるから学校に来たいと思っている子もいるので、意欲を継続できる方法を見出して行けたらと思います。

市長

昨日、大阪に住む小学校4年生の孫のバスケットを見に行きました。素人の方がコーチに来ており、無報酬で練習を教えている。無報酬でコーチをしている方の何人かは、お子さんが同じチームでプレーしている。それが何世代も続いているということで、なぜそういうことができるのだろうか、感心して帰ってきました。

石田委員

地域的にそれが当たり前が続いているんでしょうね。

市長

それも土日に練習があり、時には夜8時とか9時まで小学校の体育館で練習があり、子どもも大変ですけど、大人も大変だなと。

石田委員

そうですね。子供たちへの思いやりや気持ちがあるからできることですね。

金原教育長

現在、中学校の土日の部活が月2回になり、残りの2回は親御さんが練習をみてくださっているところが出てきておりますので、そういう力も借りながら、地域の外部指導者も入っていただいて、子どもたちがいつでも練習できるようにということを考えております。ある中学校では17年間テニス部の外部指導者をやっている方がいらっしゃって、そういう地域の方や保護者の方に手伝っていただきながら上手く続けられるといいなと思っております。

市長

部活についてはどういう形で移行、展開していくかっていうのは非常に重要なポイントになるかと思えます。

最近、「あんぱん」というドラマが放送されておまして、その中の名言をご紹介します。少し作品を紹介すると、やなせたかしさんという「アンパンマン」を書いた方とその奥様の話でして、やなせたかしさん兄弟は父親が亡くなって、医者である四国の叔父のところへ預けられ、そこで育っていくという話です。その叔父がやなせたかしさん兄弟に言った言葉です。「何のために生まれ、何をしながら生きるのか。なにが幸せで、なにをして喜ぶのか。これだというものが見つかるまで、何度でも何度でも必死に考えなさい」。また、作中で「一回きりの人生だ。好きなことをやればいい。」という言葉も出てきますが、この2つの言葉の指す意味は同じだと思っています。この会議の中でも同様の話がありましたが、自分で判断して、自分で考えていく力というのが必要なかなと思います。子どもそれぞれの生き方というのは自分で考えなければならぬと。そういうことを考えることができる環境を作ってあげるのが、私たちの務めかなと思います。最後に余分なことを申し上げましたけれども、色んなご意見をいただきまして、本日はありがとうございました。いただいたご意見を事務局で検討させていただきまして、次回の総合教育会議で改めて素案を提示させていただければと思います。本日はどうもありがとうございました。

3 その他

第2回…9月29日（月） 教育大綱改定素案の提示（予定）